

法話 お浄土のはたらき

佐々木隆晃師
相愛大学教授

いつもと違う夏

今年も暑い夏でした。そして、いろいろな場面でも例年とは異なる夏でした。電車や飛行機。高速道路では混雑が少なく、旅行や帰省がままならない、これまでと違う不便さの中で過ごす夏となりました。せつかく帰ったふりさどで少しもゆっくりできなかつた人もいれば、帰ってきてほしいのに帰ってくるなど言わねばならなかつた人もいます。ふるさとを大切に思う気持ちには同じでも、人の生活には思い通りにならないものがあるのだということをあらためて思い知らされました。

「^{せいげん}世間虚仮、^{ゆいふつ}唯仏是真(世間は虚仮にして、唯仏のみこれ真なり)」

には、私たちの世界が煩惱に束縛されて、嘘いつわりにあふれていること、真実なる仏さまの世界こそ求めているべきものであることが示されています。そうはいっても、現実の生活がいくつらく悲しくても、思い通りにならなくて悩み苦しむことばかりでも、どうせ二セモノなんだと開き直って私たちが世界でのかかわりをすべて捨て去ることは、なかなかできそうにありません。そのような私たちに

って、真実なる仏さまの世界とはどんな意味があるのでしょうか。今回のコロナ禍では、病を恐れるあまり、人に対して心ない言葉を浴びせてひどく傷つけるといふ悲しい行為が多く見られます。このようなことは本来あってはならないはずですが、相手の境遇を他人事として攻撃するだけでは、自分をただ批判するだけでは、自分もまた同様の行いをしてしまっているのと同じなのかもしれません。親鸞聖人は、嘘いつわりにはあふれるこの世界に生きる私は、いかに誠実にありたいと思っていて、も、一歩間違えたら百人あるいは千人の人を殺すかもしれない不安定な存在であるとおっしゃっています。真実なる仏さまの世界は、そのことを私に気づかせ、相手の境遇を他人事とせず、思いを分かち合うことの大切さを教えてくれたのです。

今夏は思うような帰省がなかなかあったとしても、「ふるさと」は遠くにあると「絶望するのではなく、帰る場所を整えることのできなかった、待たせてくれている人の無念に思いを巡らしてみるところでしようか。私たちがふるさとを大切に思うのは、その場所を同じように大切に思ってきた方がいるからこそであり、その方々をはじめ多くの先人がこれまでもふるさとを大切な場所として整え続けてきてくれたおかげです。今回、人の世ではそれがあたりまえではなかったことが、あらためて明らか

今、ここに、届いている。そんな私たちにとって、まことのふるさとであるお浄土は、仏さまの願いによって整えられ、はたらき続けている仏さまの国です。それは、太陽が彼方にありながら、その光のはたらきはここに届いているように、お浄土は西にあって私が帰るべき場所として整えられ、そして今、ここに、そのはたらきが届いているのです。これまで見送ってきた先人を思うとき、仏さまの国のはたらきが私のもとに届いていることを身近に感じることもできます。それを私は、10歳になったばかりの私の娘から教えられました。

娘は夜寝る前に必ずしていることがあり、顔を窓の方に向けてしばらくじっとして、少したってから電気を消して目を閉じているのです。最初は何か考へ事でもしているのかと思いましたが、あるとき、その様子がチラッと見えると、娘の口は少し動いていて、何か話をしていくように見えました。それは毎日続けたら、寝る前の日課となっていました。何をしているのかを直接聞いていたことはありません。顔を向けている窓の方角が西であることに、後になって気づきました。そういえば以前、窓の方を指さして、「こっちは西?」と聞かれました。学校で学んだ東西南北を確認しているのかと思いきや、「うん、西だね」と話しました。方角の意味がわかったのは旅行に行った時でした。はじめて泊まる旅館で娘は寝る前、「西はどっちか」

と聞くので地図で調べて教えたことがありますが、外出先でも寝る前には西に向かって何かを語りかけていたのです。娘が誰に向かって話をしているのか、尋ねてはいませんが、それが何のためであるのかもわかりません。今日一日のことを報告しているのかもしれないし、ただ単に怖い夢を見ないよう願いをしているのかもしれない。ですが、お経に仏さまの国は西にあると説かれていて、娘がその後6カ月の時に亡くなった彼女の母親は、二人暮らしの娘と私の生活を仏さまの国から今もちゃんと見守ってくれているという話を、いつも話しています。



教誓寺の蓮(次頁も)

本願寺新報 令和2年9月10日号掲載

教誓寺 法要のお知らせ

特別な年の行事
新型コロナウイルスの影響が、こんなにも長く大きく私たちの生活を制限してくるとは、春のお彼岸の時には思いもありませんでした。
これからどうなるのか、予想も付きませんが、感染防止対策を取った上で控えるために執り行おうと思えます。

秋期彼岸会法要

9月22日(火) 秋分の日
○法要 午後2時より

ご都合のつく方は、時間に合わせてお参り下さい。

御彼岸の期間は
9月19日(土)～25日(金)です。

報恩講法要

報恩講は、浄土真宗門徒にとって最も大切な行事です。宗祖親鸞聖人が

一二六二年十一月二十八日に亡くなられましたが、この日を今日の暦に換算すると一月十六日になります。本山では、一月に宗祖のご恩に感謝する「ご正忌報恩講」が勤まります。

今年の教誓寺の報恩講は、十月の第四日曜日にお勤めいたします。

記

令和2年10月25日(日)
○法要 午後一時より

○来年の浄土真宗カレンダーをお持ち帰り下さい。
○お参りの時には門徒式章をご着用下さい。

コロナ対策のための 変更点

○他寺院の僧侶の出勤を依頼せず、教誓寺所属僧侶のみでお勤めします。
○法話は、法要後に住職が行います。
○報恩講の御齋(お食事)は、取りやめます。

○手指の消毒をお願いします。
○本堂内では、普段生活をともにしている方以外とは、間隔を開けておかけ下さい。
○お互いの安心のため、マスクの着用をお願いします。(マスクはお寺にも用意があります)

住職より

今年には気の重いことばかりが続いて、誰もが「うつうつ」としている中で、お寺ではちょっとした嬉しいことがありました。
メダカがいる鉢の蓮は、二十何年前前にいただいたもので、ろくに手入れもせずにはいました。
昨年の春のお彼岸後から、株分けや土替えなど、きちんと手入れを始めました。日当たりの悪さはどうしようもないのですが、すくすくと育って、二輪の花をつけてくれました。水面近くにつぼみを発見してから開花までは、じれったいくらいに時間がかかりましたが、開花からはたった3日で散坊守も大変よろこんで、

未明から写真撮影を続けました。とても良い時間を過ごさせてもらいました。



教誓寺維持会費について

本年度も維持会費ご納入有り難うございます。これからの方も早めにお願ひ致します。

浄土真宗本願寺派 圓生山 教誓寺
108-0073
東京都港区三田 一十二-11
〇三(三四五)一二九
kyousei.ji@js4.so-net.ne.jp